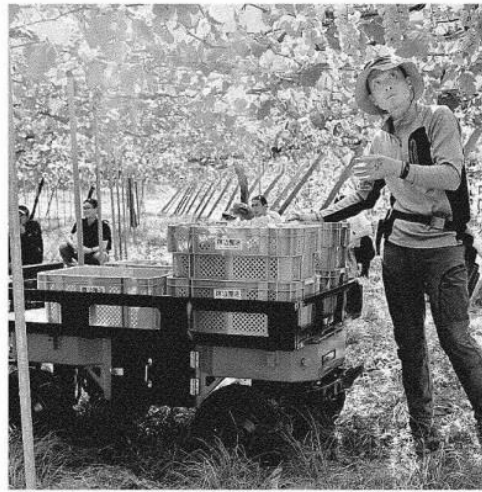


年 組 名前：



AIロボット ブドウ運搬

仙台の業者 甲州で公開

画像認識技術の活用などを手がける輝翠TECH(仙台市、ブルーム・タミル社長)は、収穫したブドウの運搬作業などができる農業用AI(人工知能)ロボットを開発し、甲州市内で作業を公開した。人が収穫したブドウを指定された場所に運搬し、省力化につなげる。今後も県内農家と協力してテストを重ね、来春の商品化を目指す。(山本昂輝)

収穫省力化へ来春販売

会社によると、ロボットは4輪走行で、縦1・5メートル、横1メートル、高さ0・6メートル。上部に収穫用の箱や農機具、肥料などを積み、最大200キロまで運搬できる。前後にカメラが付いていて、収穫する人の後を追いついて、積まれたブドウなどを指定の場所に運ぶ。

ブルーム社長が東北大学の学生時代に研究した月面探査機の技術をベースにしていて、どこへ道や傾斜地でも走行が可能。運用を続ければAIがより効率的な追従経路を学んでいくという。

13日は甲州市勝沼町下岩崎の勝沼醸造の農場で、ロボットを使った収穫作業を公開した。収穫した男性は「どこほこの場所を手押し車を押してブドウを運ぶのは大変な作業。収穫作業を行う男性」

農業用AIロボットを使用して収穫作業を行う男性
甲州市内



QRコードから動画を
見られます

問1

仙台市の企業は、どのような作業をするロボットを開発しましたか。

.....
.....

(2023年9月14日付 山梨日日新聞9面)

問2

このロボットは、どのような技術をベースにすることで、どのような場所を走行できますか。

・技術：
・場所：

問3

発売後には、どのような機能を追加する予定ですか。

.....

問4

このロボットは、農家にとって、どのようなメリットがありますか。

.....
.....